



足を付かず、ロープを握り、90度の板の上まで滑り落ちるゲーム。全員の身も心も、なだりながら成功した。

ともに育てる Together

【特集】
いい顔して、楽しみながら、一歩ずつ。

冒険とともに、未知の潜在能力と人間力が育っている。

NPO法人 ABC 野外教育センター



自己紹介を済ませた後、グッズを使い、名前を呼び合うアイスブレイキングゲームでメンバーの名前を覚えていく



ファシリテーターの藤谷さんより「ゲームの説明が始まる、フレンドリーに明るく冗談を交え、参加者たちの緊張をほぐしながら

野外教育を通して、見えてくる自分

初夏の光が差し込む半島に雄大な海が広がる。千葉県市川市浜野リゾートパーク内。午前10時になると、ゲート近くの集合場所にポツリポツリと集って来た10名の「九州能力開発研究会」のメンバーたち。企業から推薦され、研修に参加した彼らは、全員が異業種であり、住む場所も大分、福岡、奈良と違い、今日が初対面という。自然の中で体験型学習を通して、企業を担うリーダーを育成していく。この「体験学習法」のプログラムを提供しているのが、NPO法人ABC野外教育センター（以下ABC）だ。

ABCとは「Adventure（冒険心）、Balance（バランス）、Challenge & Fun（楽しくチャレンジ）」の頭文字を取ったもの。野外教育というと、木登りやキャンプや海水浴などの野外活動を通して自然に触れさせる教育と思われがちだが、実はそれだけではない深い意味がこの活動には隠されている。その隠されたものは、自分探しのための人間形成。人は自分以外の人との交わりによって磨かれ、成長していくものだが、現代は携帯やメールに依存し、ナマの人間と対峙することを敬遠しがちである。若い世代だけでなく、大人社会、家族間、地域内でも、人とのコミュニケーション

がとてども難しくなっている。もし、学校や家庭、または企業で、こんなトラブルが起きたら？全員で何かをしなければならぬ。自分自身で何かをやるのではなく、自分自身の意見を他者に伝えたいときは？などなど、社会で出会う出来事や、野外で行う全員参加のゲームに重ね合わせて、自分が考え、自分が気づいていく。そのプログラムを作成、実施し、活動の場と気持ちの機会を提供するのが、ABCの役割だ。

ベースとなった冒険教育「アウトドア（野外）エデュケーション」教育は、20世紀の前半、第2次世界大戦のさなかに、ドイツの教育者カール・ハルト博士の考えから生まれたという。すでに、欧米では小学生から社会人まで広まっている。この野外教育をオーソライアリの現地で知ったのが、現在ABCの理事である松本睦美さん。以前、海外研修・留学のコーディネーターとしていた松本さんは、海外研修生たちを引率していた際、ホームステイ先や異国文化に戸惑い、自発的な行動を取れない日本の子どもたちを見て強い危機感を抱いたという。

「私も子どもを持つ身ですから、これは何とかしなきゃ、このままでは外では通用しなくなる子どもばかりになってしまおうと思ったんです。」

「どうにかして、この野外教育を日本に取り入れられたいかと、考えを共にする知人数人と立ち上げたのが、

さんに、具体的に解説していただいた。「まず、自己紹介から始まり、全員が名前を覚えて、緊張をほぐしていくまでのアイスブレイキングを行います。アイスブレイキングとは「氷を溶かす」という意味で、心の壁を取り払うこと。普通は自己紹介だけで終わるものだが、互いが名前を覚えていくために、グッズを使いながら何回も何度も自分の名前を言い、指名された相手の名前を連呼し合う。名前を呼び間違えたり、ニックネームを呼び間違えたりしているうちに次第に笑いが出てくる。いつの間にか緊張がほぐれ、相手への警戒心も消えている様子。

「こうやって第一段階のステップを踏んで相手を認識した後、全員参加のゲームに入ります。ゲームといっても勝ち負けの競争ゲームではない。例えば巨大なシーソーの両端に数人ずつが乗ってバランスを取ったら、そのままバランスを崩さずに互いの陣地に入れ替わるシーソーゲーム。この簡単なようで難しいゲームに全員がどうやればバランスを崩さずに入れ替わられるかを考え、話し合う。そして、挑戦した後、一人ひとりが今のゲームの中で何を感じたか、何が悪か、自分はどうしたかったかなどを振り返る時間を設けていく。

「この『振り返り』で、日頃の自分の心のクセや行動パターンが見えてくるんです。そういえば同じことを会社



ゲーム後に設けられた『振り返り』の時間。反省するのはなく、気付くことで、次に生かす大切な時間だ

でもなく、ファミリーテーター（促進者）と呼ばれる。参加者を観察しながら、主体性や可能性を引き出す役目だ。「私たちはきっかけを与えるだけ。誘導も指導もしないし、参加者の意見や動きが出るのをひたすら待つだけなんです。ともすれば、自分を含めた大半の大人は待って、早くしろ、こうしろ、と指示して、子どもたちから主体性を奪ってしまう。一度きっかけを作れば子どもたちの成長はとて早くいです」とユニゾランド出身のジョアンさんは話す。

「大切なのは楽しい時間を過ごすこと。その環境を僕らは提供することで」と話す藤谷さんやジョアンさんの後に続く、ファシリテーターの育成にも力を入れている。

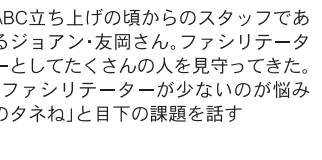


APUの学生たちが行うリーダー研修。互いの膝に乗り、信頼関係を確かめ合うゲーム。すべてのゲームに深い意味が含まれている



国語の違う学生たちがキャンプ場となる志高湖を見ながらミーティングを重ねる

きつかけや開わりさえあれば、人は人にもまれ、自然と人間力が養われてくる。冒険に出るのは怖がりではない。自分の心から、今いる安全な場所から、一歩外に出てみると、世界はもっと広く鮮やかに見えるのかもしれない。そんな大切なこと、失われそうになっている「冒険」を、野外教育によって教えられた。



ABC立ち上げの頃からスタッフであるジョアン・友岡さん、ファシリテーターとしてたくさんの人を見守ってきた。「ファシリテーターが少ないのが悩みのタネ」と目下の課題を話す



ジャンボシーソーゲームを成功させることに必死のメンバーたち。誰が欠けても成り立たないゲームの中で一つの目標に向かって全員が同じ方向を向き始める



「鳥」に見立てた台から一度も降りず、もう一つの「鳥」に板を渡し、時間内に全員が移るマウンテントップスというゲームを行う参加者たち。時間内に見事成功!



ABCの代表である藤谷将登さんは、ファシリテーター養成講座の第1期生。「ゲーム進行にはマニュアルはないし正解も無い。それを見守るファシリテーター自身も変化していきますね」

ともに育てる Together

いい顔して、楽しみながら、一歩ずつ。

NPO法人 ABC野外教育センター
〒870-0028 大分県大分市新町15-32
TEL 097-534-2440 FAX 097-534-2446

ABCプログラムサイト
〒873-0033 大分県杵築市江1165-2
住吉浜リゾートパーク内
TEL 0978-64-9127 FAX 0978-64-9128

【特集】
いい顔して、楽しみながら、一歩ずつ。

大切なことは、結果ではなくプロセス

住吉浜で、初めての人と初めて行う活動を前に、少し緊張気味の参加者たち。彼らが行う今日のゲームのプログラムを、ABCの代表であり、プログラムディレクターである藤谷将登

「ABC野外教育センター」だった。欧米のカリキュラムをそっくりそのまま持つてくるのではなく、どうしたら日本人に受け入れられるか、どうやったら、この考え方を保護者や学校に伝えられるかを試行錯誤し、失敗を繰り返しながら、少しずつずつ実績を積み上げ、地域に浸透させてきた。そして、2001年7月にNPO法人の認定を受けるまでになり、ユニークな冒険教育の手法を取り入れた「野外教育」を確立させた。

ABCの基本は、異文化や他者と交流を行いながら生きていく上で必要とされる「コミュニケーション」や「問題解決」「仲間づくり」「自主性」「信頼、協力」などのスキル（技能）を、様々な活動を通して冒険心を持って「楽しく」学んでいくこと。海外研修で異文化に触れながら子どもたちの育成に関わっていくことを本来の趣旨として、今では、学生のリーダー研修や企業の新人研修、人材育成などにも活用されるようになってきた。